

原著

釜山日本村における実践研究（２） －活動及びアンケート評価より－

中村 智子¹⁾

Practical Research in Busan-Japan Village (2) －From Activities and Survey Evaluations－

by

Tomoko NAKAMURA¹⁾

キーワード：釜山日本村，韓国，日本語，幼児教育，教材

要旨：外務省調査によると、2023年には海外在留邦人の総数は約129万人で、地域別では北米が約49万人と最も多く、ついでアジアで約36万人の順となっている。アジア圏の国別でみると、韓国は4万2千人近くの邦人が長期在留している。海外において、日本にルーツを持つ子どもたちは年々著しく増加傾向にあるが、日本語や日本文化を伝えていく趣旨で立ち上げられた団体が釜山広域市に存在する。

前論文でこの地域に在住する日系子女へ具体的な実践活動を明確にしたが、今回は同年9月から11月に実施した計3回の活動内容と保護者アンケートの評価・結果を含めて報告し、活動効果について考察することを目的とする。

アンケートを実施した結果、全項目において肯定的な回答と高評価を得た。また筆者に一番に望む活動内容は、子ども・保護者ともに絵本の読み聞かせであった。

釜山日本村という環境は、様々な年齢の子どもたちや保護者が活動以外においても関わり、ふれあいながら日本語を習得していく。つまり少しずつでも子どもたちなりに言葉を発達させてくれる場所でもある。言葉としての定着、いわゆる言語能力はその場の短時間で確立できるものではない。やはり継続した積み重ねによる長い時間が必要になってくる。様々な年齢の子どもたちが集う活動を通して、すぐには日本語を発することが困難で身に付けられなくても、筆者は、子どもが楽しく活動に参加し、そして保護者と共に発達を実感できるよう、活動を継続していく。

受理日：令和6年11月21日

1) 純真短期大学こども学科 准教授

1. はじめに

本論文は「釜山日本村における実践研究－幼児クラスの具体的活動を通して－」¹⁾（以下、前論文と略記）の続編である。令和 5 年（2023 年）10 月 1 日現在の外務省「海外在留邦人数調査統計」²⁾によると、大韓民国（以下、韓国と略記）に 3 カ月以上在留している日本国籍を有する邦人は 4 万 2,547 人であった。前年比より 2% 増加している。また令和 4 年（2022 年）の韓国・行政安全部の統計表の「地方自治体外国人住民現状」³⁾によると、釜山広域市（以下、釜山市）において日韓夫婦の子ども（0～18 歳）は男子 289 人、女子 275 人、計 564 人であった。筆者はこの釜山地域の日韓夫婦の子どもたちの現状を新聞で知った。かつて幼稚園での実務経験を活かせればと思い、現地へ赴き活動に参加している。

そこで、今回はこの地域に住む日系子女へ日本語や日本文化に関わる具体的な実践活動内容を明確にしたが、今回は同年 9 月から 11 月に実施した計 3 回（下記、第 4・5・6 回目と記載）の活動内容と、筆者の活動を参観した保護者のアンケート結果、及び保護者から聞き取ってもらった子どもの感想などから、さらに釜山日本村の幼稚部での活動効果について考察することを目的とし、今後の実践活動において、これらの実績を踏まえより充実した活動につなげていく。

2. 調査研究方法

時 期：2023 年 9 月 24 日（日）、10 月 29 日（日）、11 月 26 日（日）の計 3 回

時 間：午前 10 時から午前 11 時 30 分

対 象：釜山日本村の幼稚部 4 歳児から 6 歳児

場 所：TIS 外国語学院 【釜山市・海雲台（ヘウンデ）】

方 法：活動内容は「子どもの活動」と「活動を進める上での留意点」に重点をおき、筆者が記録を集約した。またアンケート調査は筆者の活動を参観した幼稚部と小学部の保護者を対象に、google フォームを用いた質問紙と自由記述形式のアンケート調査を釜山日本村側で実施して頂き、後日、その評価・結果を頂いた。アンケート時期は筆者の年度最終日の後に行われ、質問内容・項目は今回、事務局側で用意して頂いたものであり、また筆者の活動を終えた所管についての質問であり、回答は 7 名（当日参加者全員）から得られた。

3. 調査研究の倫理的配慮について

本研究を進めるにあたり、釜山日本村に関する資料や写真などは、事務局より掲載に関しての許可を事前に得ている。また後述するアンケート調査・結果に関しては保護者に対して、回答名の記入は不要であること、回答の可否は任意であること、研究目的以外には使用しないこと、また回答したことによる不利益を被らないことを筆者と事務局の両方で、調査の目的と趣旨を口答で説明した。

4. 実施活動結果と考察

（1）釜山日本村の幼稚部の概要

釜山日本村は日本人の親をもつ日系子女を対象に、日本語や日本文化を伝えていく趣

旨で 2011 年に釜山外国語大学で立ち上げられた団体である。活動拠点は釜山市海雲台に位置し、月に 2 回、第 2 と第 4 日曜日に定例で行なっている。幼稚部の他に小学部も開設されており、現在 9 名が幼稚部に所属している。釜山日本村の詳しい全体概況については前論文を参照されたい。ここでは釜山日本村（幼稚部）の年間活動目的とオフライン（対面）クラスの会員数を詳細に下記する。

【目的】

- ・日本の遊びや日本の文化を体験する。
- ・日本語でのコミュニケーション能力を高める。
- ・日本語力を向上させる。

【会員数】（表 1）

オフライン （対面）クラス	保護者	子女			
		男	女	計	年齢
幼稚部	6 名	7 名	2 名	9 名	4 歳 3 名 5 歳 1 名 6 歳 5 名

（「釜山日本村の歩みより 2023」⁴⁾ 一部引用）

表 1 より 2023 年度の幼稚部は 9 名の子どもたちと保護者 6 名で運営し、子どもの年齢は 2023 年の誕生日を迎えた時の満年齢で記載されている。ちなみに小学部は 3 クラスあり、合計 9 名（保護者 7 名）である。幼稚部のオフライン（対面）クラスの活動は 1 カ月に 2 回あり、1 回の活動時間は 1 時間 30 分、そして小学部も幼稚部と同様であるが、時間が 30 分長く 2 時間となっている。

（2）幼稚部の実践活動内容

詳細な活動内容にあたっては資料として添付し、ここでは考察検証を行うこととする。また筆者が実施した活動回数は前半から数えての数字となる。

【第 4 回目（資料 1 参照）】

実 施 日 時：2023 年 9 月 24 日（日） 午前 10 時から午前 11 時 30 分

当日の参加者：子ども：8 名 保護者：6 名（先生役の保護者 1 名含む） TA：2 名
担 当：保護者 1 名と TA2 名と筆者（午前 10 時 45 分から 11 時 30 分）

当日の活動は幼稚部の 6 家族 8 名（そのうち 1 家族 2 名は見学）、小学部の 2 名、そして TA（日本人留学生）2 名で行なった。集合に時間がかかった為、少し遅れての開始となった。先に先生役の保護者が手遊びをいくつか行い、その後、日本人留学生が季節の折り紙で「栗」を紹介し、ゆっくりと一つひとつ説明を入れて取り組んだ。

休憩をはさんで後半の 45 分を筆者が担当した。まずは先ほど折り紙で作った「栗」に関連する「大きな栗の木の下で」の手遊びを紹介し、応用しながら少し変化を入れて子どもたちと楽しんだ。前回、好評だったシリーズの絵本を新たに持参し、今回も一緒に声を出して参加する子どもの姿が多くみられた。また読み終わった後、一人の男の子が筆者自ら机に置いた絵本を手に取り、ページをめくりながら日本語で声に出している光景がみられた。次の活動に移りたかったが、男の子の読み終えた様子をみ

て、ミュージックパネルシアター「とんぼのめがね」を全員の前で披露した。初めて知る日本の童謡を子どもたちはじっとパネル人形に注目しながら、黙って聴いていた。（保護者や留学生たちが筆者と一緒に歌う場面があった。）それから日本から持参した紙芝居「どんぐりのうんどうかい」を準備すると、一斉に大きな拍手があがり、子どもたちもワクワクした様子でじっと見つめていた（写真1）。続けて、今回はその紙芝居にちなんで、みんなでどんぐり帽子を製作することにした。子どもたちがかぶる帽子は事前に新聞紙で用意しておき、当日に頭の大きさを調整し、画用紙で作ったどんぐりを子どもたちの前に広げて製作活動を開始した。どの子どもたちも驚くほど集中し、普段おしゃべりな子どもも黙々と取り組む姿に保護者たちが大変驚く場面がみられた。色とりどりのどんぐり帽子が出来上がって活動を終了した（写真2）。子どもたちも満足げな様子で帽子をかぶって記念写真を撮った。

当日、初めて見学に来られた家族も入会を前向きに考えられていると事務局の方から伺った。今回の課題は限られた時間の関係上、製作に予想以上の時間がかかってしまった為、より多くの日本語に触れる機会が少なかったと振り返る。



写真1：紙芝居風景

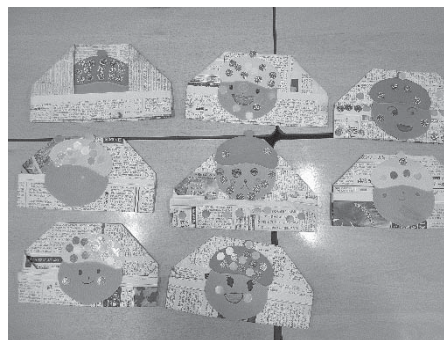


写真2：どんぐり帽子の製作



写真3：手作りのカード

【第5回目（資料2参照）】

実施日時：2023年10月29日（日） 午前10時から午前11時30分

当日の参加者：子ども：4名 保護者：3名(先生役の保護者1名含む) TA：1名
担 当：保護者1名とTA1名と筆者（午前10時45分から11時30分）

当日の幼稚部の出席は3家族4名（そのうち1家族1名は見学者）、そしてTA（日本人留学生）1名と担当の保護者と筆者で活動を行なった。（季節の変わり目で体調不良による欠席が多いと事務局より連絡を受けた。）最初の45分間は当日担当の保護者が取り組み、日本語で挨拶した後、日にちの確認や子どもたちの名前呼びの他、絵本読みをされた。それから10月末の活動であった為、ハロウィンにちなんで紙コップとビニール袋を用いて子どもたちは「飛び出すおばけ」を製作した。ビニール袋に思い思いのおばけをゆっくりと描き、とても集中して最後まで投げ出さずに全員が作りあげた。ストローにビニール袋をテープで巻き付ける箇所はお手伝い学生や周りの保護者の協力のもと、完成した。子どもたちは膨らむビニール袋に目をまるくさせて、とても喜んだ様子でひ

ととき遊ぶ姿がみられた。

休憩をはさんで、後半の 45 分が始まった。筆者は季節の手遊び歌「やきいもグーチーパー」を紹介し、子どもたちも初めての手遊びに関心を示して一緒に取り組んだ。じゃんけんが入っていた手遊びだった為、1 回では終わらず、子どもたちから「もう 1 回！」とせがまれて盛り上がった。その次に「さつまのおいも」の絵本読みをした。この絵本は私が幼稚園教諭時代に 1 カ月もの間、繰り返して毎日読んだ思い出の本である。幼稚部の子どもたちに受け入れられるかを心配しながら読み進めたが、反応は以前に読んだ時と同様の場面で笑いがおこった。読み終わると、一人の男の子がやきいもを食べる仕草がみられ、それに続けて他の子どもも真似をする姿がみられた。絵本の内容を十分に楽しんだ結果だと考える。次に「ごきげんのわるいコックさん」の紙芝居を読んだ。子どもたちは紙芝居の話に夢中になり、一時、紙芝居がめくれないほど興奮した状態になった為、少し中断し、座ったことを確認してから再び読み始めるハプニングがあった。筆者が長く紙芝居を読み始めて、経験したことのない子どもたちの姿に驚いたが、それだけに話の内容を楽しんでいることを肌で感じた。それと同時に絵本とは異なる紙芝居の魅力も感じた。次にミュージックパネルシアター「山の音楽家」を紹介し、子どもたちは様々な楽器のオノマトペを私の表現を模倣しながら取り組んだ。続けてエブロンシアター「くいしんぼうのゴリラ」を演じ、バナナの皮をむく真似を一緒に楽しんだ。その後、事前に新聞紙でバナナを作ったものを子どもたちの前でやり方を披露すると歓声があがった。1 枚 1 枚ゆっくりと新聞紙をやぶる指先の活動を取り入れてみた。子どもたちは真剣に上から下へまっすぐにビリビリと破り、その音も楽しんでいる様子であった。誰一人として投げ出さず、最後まで集中して取り組む姿に大変ほほえましく、出来上がった作品を見せてくれた表情はとても生き生きとしていた。全ての活動を終わった後も、他の子どもたちとその新聞紙を使った遊びをして動き回っていた。

【第 6 回目（資料 3 参照）】

実 施 日 時：2023 年 11 月 26 日（日） 午前 10 時から午前 11 時 30 分

当日の参加者：子ども：5 名 保護者：3 名 TA：3 名

担 当：TA 3 名と筆者（午前 10 時 45 分から 11 時 30 分）

当日の幼稚部の出席は 3 家族 5 名、そして釜山外国語大学の日本人留学生(TA)3 名と筆者で活動を行なった。前半は留学生によるなぞなぞ動物カード遊びが行われた。カードは留学生の手作りで 20 種類のカードが用意されていた。日本語で子どもたちに例えば「私は首が長いです。だれでしょう？」と質問をし、その動物にあてはまるカードを選ぶ方法である。その活動が終わると好きな動物を一人ひとり粘土で作る予定であったが、カード遊びに時間がかかった為、別日に取り組むこととなった。留学生たちにとっては初めて子どもたちの活動を自分たちで計画した内容であることを事務局より伺った。

後半の 45 分を頂いたが先の活動に時間がかかり、少し遅れて活動を開始した。この時間より 1 年生になって間もないクラスの子どもたちも一緒に参加し、合計 7 名で賑やか

に始まった。まずは手遊びの「まつぼっくり」を行なった。持参したまつぼっくりに子どもたちは興味を示し、スムーズに取りかかることができた。今回は少し変化のある工夫を取り入れた。同じ手遊びを何度か行なった後、歌詞の韻をふむところを言葉に出さないルールを作って、実践してみた。最初は手本を示し、練習をして本番という流れを徹底し、発達年齢も考慮してゆっくりと進めていった。子どもたちの内容理解が早く、最後はスピードをあげて繰り返し取り組んだ。それから絵本の読みきかせを2冊と紙芝居を1冊、そして来月の季節にふさわしいクリスマスソング『赤鼻のトナカイ』の表現遊びに取り組んだ。さきほどの手遊びと同様、韻をふむところ(歌詞の中に出てくる『の』)を手でたたいてみたり、応用してしゃがんだり等、言葉に意識をもつこともでき、子どもたちがこの活動に大はしゃぎで筆者の想像以上の大盛り上がりを見せた。最後にクリスマスのベルを一人ひとり製作して無事に活動を終えた。今年度最後の活動日となった為、子どもたちや保護者の前で挨拶を済ませると、サプライズで子どもたちから手作りのカード(写真3)と保護者より絵本のプレゼントを受けた。

(3) 保護者アンケート結果

(3) - 1 アンケート調査の実施と方法

筆者は2023年度より5月から11月にかけて計6回にわたり、釜山日本村の実践活動に取り組んできた。活動前日はいつも事務局側と打ち合わせを行う為、当日に子どもたちの保護者と挨拶を交わす程度で、ゆっくりと会話をする機会もなかった。活動を終えると、帰国時間の関係上、その場を後にする状況だからである。6回の活動を終えて、筆者の活動をどのように受け止め、また参観を見守られているのかを事務局に相談すると共に、次年度に向けて活動方法の見直しや改善など、要望があればできるだけ意向に添いたいことを伝えた。その提案として、筆者の活動を参観した保護者に直接、アンケート調査をする方向で進めることになった⁷⁾。釜山日本村の事務局側の厚意で、アンケート実施や設問項目内容など申し出て頂き、全面的な協力を得、後日、メールにて結果を頂いた。

実際にアンケート調査に回答した保護者は7名で、当日参加者の全員から得られた。アンケート調査の倫理的配慮に関しては、前述の通りである。また設問については、一度目を通し、最後の設問に要望やメッセージを追記して頂いた。設問の1～5と7は選択式、6と8は自由記述とした。また本文中の自由記述に関しては全て修正せず、保護者から頂いた言葉をそのまま記載した⁸⁾。

(3) - 2 アンケート結果と考察

アンケートの全容は本論文の巻末【資料4】を参照されたい。まず、回答を頂いた子どもたちの所属クラスの数(設問1)であるが、幼稚部2名、たまごクラスAから1名、幼稚部とたまごクラスAの両方クラスより4名、計7名であった。兄弟姉妹で揃って活動に参加している家族が多い。釜山日本村は幼稚部と小学部があり、現在小学部は「たまごクラスA」「おたまじゃくしクラスA」「かえるクラスA」と3つに配属され、幼稚部を卒業した子どもたちの多くは「たまごクラスA」に進級している。

次に「(保護者から見て)中村先生(以下、筆者)の授業は全体的にどうでしたか。」

の問い（設問 2）に「とても楽しかった」と 100%の回答を頂いた。設問 3 の[（保護者から見て）どんな活動が楽しかった（楽しくなかった）ですか。（複数回答可）。お子さんが複数いる場合は「その他に」「上の子は、下の子は、」と書いていただいても大丈夫です。]の選択質問について、工作（製作）が 85.7%と一番多く、次に「絵本の読み聞かせ」と「パネルシアター」が同率 71.4%で、「紙芝居」「手遊び」も同率 57.1%と続いた。

今度（設問 4）は保護者が子どもに同じ質問「（子どもに聞いてご回答ください）筆者の授業は全体的にどうでしたか。」を伝えると、「とても楽しかった」が 71.4%、「楽しかった」が 28.6%という反応であった。

もう一つ、[（子どもに聞いてご回答ください）どんな活動が楽しかった（楽しくなかった）ですか（複数回答可）。]お子さんが複数いる場合は「その他」に「上の子は・・・下の子は・・・」と書いていただいても大丈夫です。]（設問 5）については、「絵本の読み聞かせ」と「手遊び」が同率 71.4%と一番高く、次に工作（製作）、続けて「パネルシアター」「紙芝居」の順であった。この結果より、保護者も子どもたちも「絵本の読み聞かせ」の活動を大いに期待していることが分かった。また製作も人気の高い活動であると把握できた為、季節や日本の伝承文化にかかわる内容を今後の活動に取り入れていきたい。

ここで一つ興味深いことは保護者と子どもの「紙芝居」に関する認知度の差である。演者からみれば、最初は座っている子どもとの距離があるものの、紙芝居を読み終えた後は、膝をすり合わせるくらい縮まって、話の内容に夢中になっている姿がみられた。韓国では紙芝居という文化はなく、日本特有の文化財である。その為、保護者にとって日本で幼い頃に紙芝居を読んでもらった経験はあるが、子どもたちにとっては紙芝居という言葉さえ知り得ないのが現状であろう。これからも繰り返し読み進めていきたいと考える。

次に「来年度、もし筆者が釜山日本村にいらっしゃるとしたら、どんな授業を期待しますか。内容をできるだけ具体的に書いてください。」（設問 6）の自由記述式の問いに保護者全員より回答を得た。詳細記述は本論文の巻末資料として添えるが、全項目の影響を受け、絵本の読み聞かせに期待していることがわかった。おそらく保護者にとって、絵本を読む以前に絵本を探すことが一番困難なのではと考える。同時に韓国にも外国絵本として店頭日本語表記の本は増えているが、すぐに調達するのが難しい状況ではないだろうか。釜山日本村に通う子どもたちの発達年齢も異なる為、筆者も内容をより吟味して紹介している。一部、保護者アンケートより、絵本読みの影響を受けて「娘が料理と一緒にしたいと言いました。」という記述があり、これがきっかけで次につながる活動に結びついたことは実践冥利につきる。

続けて「もし筆者が釜山日本村の保護者セミナー（幼稚部の子どもの教え方）を開催するとしたら参加を希望しますか。」（設問 7）の質問に、「はい」が 85.7%、「時間と場所による」が 14.3%と結果として高い数字の割合であった。当日の筆者の動きは、子どもの活動に精一杯で、保護者とは活動の前後や休憩と限りなく会話が取れず、その中でも高評価を頂き、信頼して下さっていることが数字に表れた結果ではなかろうか⁹⁾。

最後に「筆者にメッセージがあればご入力ください。」（設問 8）の自由記述の回答に

は、全ての保護者から、次年度も継続した活動を希望する言葉を頂いた。

5. おわりに

2023年度は、計6回の活動を行なった。そして今回は次年度の活動につなげる為、保護者アンケートを実施した。その結果、全項目において、筆者に対する活動内容に対し、肯定的な回答と高評価を頂いた。回を重ねるごとに筆者は子どもたちにとって、日本語にふれる貴重な時間を共有していると考えたら、絵本の選び方一つにおいても深く意識せざるを得ない。絵本は、他者から日本語を聞き入れる一番シンプルな教材の一つである。アンケート評価においても、子どもや保護者からの絵本の読み聞かせの要望が一番高かった。この活動を続ける中で、子どもたちがいつの間にか自然と声に出す絵本を発見した。あきやまただし氏の「へんしんシリーズ」である。言葉を連続して声に出したら、ページをめくると、違う言葉に変化する内容を子どもたちは受け入れ、いつも笑い声が絶えなかった。月に一度ではあるが、毎回異なる「へんしんシリーズ」を読み、みんなで声に出して読み進める活動を意識して続けた。日本語にふれることが、この活動時間に留まらず、終わった後も新しく知り得た日本語を子どもが率先して使い、それを受け止める家庭という環境があれば、より日本語の習得・定着度に貢献できると考える。

習いたての言葉の意味がわかると、子どもは知り得た言葉を使いたくなる。時には正しい発音ができなかったり、上手に言えなくて多少意味が違ったりと、有耶無耶に否定せず、まず子どもが話したこと自体を褒め、評価し、子どもが日本語で話をする機会を増やすことが重要と考える。それにはまず、周りにいる保護者を含む大人たちが、子どもの話にゆっくりと耳を傾けることが大切である。

保護者は、この活動を終えて家に帰宅した後も、多忙な日々が続くであろう。それも理解した上で、子どもの話す内容には、より聞き上手になって頂ければと思う。話がまとまらない内容に、もどかしくもあり、それには忍耐力も必要であろう。だからこそ子どもが話している間は、保護者は耳を傾け、話す内容に対して先走ってはいけないとも考える。

可能であれば保護者が釜山日本村の活動経験を家庭につなげ、さらに家庭から釜山日本村につなげる、そこでコミュニティの連続性ができ、より子どもたちの身近に日本語がある状況を作ることができるのではないだろうか。

そのように考えると、釜山日本村という環境は様々な年齢の子どもたちや保護者が活動以外においても関わり、ふれあいながら日本語を習得していく。つまり、少しずつ子どもたちなりに言葉を発達させてくれる場所でもある。

言葉としての定着、いわゆる言語能力はその場の短時間で確立できるものではない。やはり継続した積み重ねによる長い時間が必要となってくる。様々な年齢の子どもたちが集う活動の中で、すぐには日本語を発することが困難で身に付けられなくても、筆者は、子どもが楽しく活動に参加し、そして保護者と共に発達を実感できるよう、微力ではあるが、活動を継続していきたい。

釜山日本村の子どもたちが通っている地元の幼稚園の言語はもちろん韓国語で、家に帰ると日本語や韓国語だったりする環境である。月に2回、この活動に参加する子ども

たちの心境はどのようなものなのだろうか。次回は子どもの心境を知ること、教材研究に結びつくヒントが隠されているかもしれない。釜山日本村が日本語継承として、より望ましい環境であり続けられるよう、これからも研究を積み重ねていきたいと考える。

謝辞

前論文に引き続き、釜山日本村において実践研究を遂行するにあたり、釜山日本村創立者、兼 釜山外国語大学教授 鄭起永先生をはじめ、活動日程の調整や打ち合わせ、そしてアンケート実施に及ぶ様々なお世話をして下さった釜山日本村事務局、兼 釜山外国語大学准教授 松浦恵子先生に多大なるご協力を頂き、心より感謝申し上げます。そして今回、アンケート調査にご協力頂いた釜山日本村の保護者の皆さまと幼稚部の子どもたちに重ねて感謝申し上げます。

引用・参考文献

- 1) 中村智子 (2023)「釜山日本村における実践研究－幼児クラスの具体的活動を通して－」純真短期大学 紀要 第 64 号 pp1-14
- 2) 外務省「海外在留邦人数調査統計」(2023 年要約版) 2024 年 8 月 8 日閲覧
<http://www.mofa.go.jp/mofaj/files/000162700.pdf>
- 3) 2022 지방자치단체 외국인주민 현황(2022 地方自治体外国人住民現状)
韓国・行政安全部 2024 年 9 月 6 日閲覧
http://www.mois.go.kr/ft/bbs/type001/commonSelectBoardArticle.do?bbsId=BBSMSTR_000000000014&nttId=104797
- 4) 鄭起永 (編)「釜山日本村の歩み 2023」(2024) 東海文化社
- 5) 釜山日本村公式ホームページ <https://sites.google.com/view/busannihonmura/>
- 6) 釜山日本村ブログ <https://ameblo.jp/busan-nihonmura/>
- 7) 鄭起永・尾崎ちえり・松浦恵子 (2023)「韓国における継承日本語グループの存在意義と課題－Covid - 19 以降オンライン活動に参加した保護者へのインタビューから－」北東アジア文化研究 第 76 集 pp237-255
- 8) 奈須千佳子・水沼一法・松浦恵子・鄭起永・金鐘熙 (2014)「日本語・日本文化の継承活動に関するアンケート調査の結果と考察－日系子女コミュニティ「釜山日本村」の場合－」日語日文学研究 第 61 集 韓国日語日文学会 PP141-159
- 9) 山下佳那子・唐姣姣・姜芳雨 (2022)「外国につながる子どもを対象にした、日本語及び母語・継承語を育むワークショップの形成過程」子どもの日本語教育研究 第 5 号 子どもの日本語教育研究会
- 10) 木村はるみ (2005)「乳幼児のことばを育てる」雲母書房
- 11) 徳永満里 (2002)「絵本で育つ子どものことば」アリス館
- 12) 瀧 薫 (2010)「保育と絵本」エイデル研究所

使用絵本

- ・あきやただし（2014）「かえってきたへんしんトンネル」金の星社
- ・あきやただし（2023）「へんしんやきいも」金の星社
- ・あきやただし（2007）「へんしんプレゼント」金の星社
- ・中川ひろたか（1995）「さつまのおいも」童心社
- ・谷口智則（2017）「100人のサンタクロース」文溪堂
- ・あべしまこ（2020）「どんぐりのうんどうかい」童心社
- ・まついりこ（1985）「ごきげんのわるいコックさん」童心社
- ・荒木文子（2007）「まんまるまんまたんたかたん」童心社

参考資料

【資料1】幼稚園の活動 <第4回目>

時間(分)	子どもの活動	活動を進める上での留意点
10:05～10:10	○日本語で挨拶をする。 ○今日の日付、曜日、天気を確認する。	・子どもたちに対して元気に大きな声で挨拶することを心がける。 ・「今日は何月何日何曜日ですか」と子どもたちに問いかけ、反応をみながら、ゆっくりと確認していく。言葉を発した子どもたちに対してしっかりと褒める。
10:10～10:15	○一人ひとり日本語で自己紹介をする。 ①名前 ②年齢 ③好きな食べ物を答える。	・見学の子どもたちも含め、一緒に活動に参加しながら進めていく。自分で自己紹介ができた子ども一人ひとりを褒めて、大きな拍手を送る。
10:15～10:25	○手遊びをする。 ①とんとんとんひげじいさん ②大きくなったら何になる ③ピクニック	・用意していた3つの手遊びを子どもたちにわかりやすいように、ゆっくりと進める。
10:25～10:35	○折り紙「栗」	・TA二人が季節の折り紙「栗」を紹介し、子どもたちに折り方の説明をする。途中で折り方がわからない子どもには声をかけながら一緒に取り組み、完成へとつなげていく。
10:35～10:45 10:45～10:50 (※筆者担当)	<休憩> ○手遊び「大きな栗の木の下で」をする。 ○絵本「かえってきたへんしんトンネル」を見る。	・最初に子どもたちの前で披露し、その後、一緒に取り組む。同じ手遊びを応用し、変化のある繰り返しを行なう。 ・全員の子どもたちが絵本の見える位置に座ったことを確認してから読み始める。
10:55～11:00	○ミュージックパネルシアター「とんぼのめがね」を見る。	・パネルシアター用の布を用意し、歌をうたいながら、3番まで演じる。
11:00～11:05	○紙芝居「どんぐりのうんどうかい」を見る。	・季節にふさわしい内容を準備し、絵本と同様に子どもたち全員が見える位置を確認し、反応をみながら読み始める。
11:05～11:30	○製作をする。 「どんぐりのぼうし」	・子どもたちが実際にかぶる大きさに新聞紙を用意しておく。 ・帽子を仕上げる為に必要なカラーペンやシールなども用意する。
11:30	○終わりの挨拶をする。	・片づけをして日本語で終わりの挨拶を行う。

【資料2】幼稚園の活動＜第5回目＞

時間(分)	子どもの活動	活動を進める上での留意点
10:00～10:05	○日本語で挨拶をする。 ○名前を呼ばれたら返事をする。今日の日付、曜日、天気を確認する。	・子どもたちに対して大きな声で元気に挨拶することを心がける。 ・一人ひとりの名前を呼び、「今日は何月何日何曜日ですか」と問いかけ、ゆっくりと確認していく。言葉を発した子どもたちに対してしっかりと褒める。
10:05～10:10	○絵本「なつみはなんでもできる」を見る。	・全員の子どもたちが絵本の見える位置に座ったことを確認してから読み始める。
10:10～10:35	○製作をする。 「とびだすおぼけ」 ①ビニールに絵を描く ②ストローにテープを巻く ③ビニールを膨らませる	・製作に必要な材料を用意し、子どもたちにビニール袋を配り、手順を説明する。 ・ストローにテープで巻きつける所は様子をみながら援助する。
10:35～10:45	＜休憩＞	
10:45～10:50 (※筆者担当)	○手遊び「やきいもグーチーパー」をする。	・最初に子どもたちの前で披露し、その後、一緒に取り組む。
10:50～10:55	○絵本「さつまのおいも」を見る。 ○紙芝居「ごきげんのわるいコックさん」を見る。 ○パネルシアター「山の音楽家」を見る。 ○エプロンシアター「くいしんぼうのゴリラ」を見る。 ○バナナの皮をめくる遊び	・先の絵本読みから場所移動をした為、再度、全員の子どもたちが絵本の見える位置に座ったことを確認して読み始める。 ・絵本と同様に子どもたち全員が見える位置を確認し、反応をみながら読み進める。 ・歌詞に各楽器の音が出てくる所を注目して、歌いながら子どもたちと一緒に表現を入れて進めていく。 ・エプロンを準備して、子どもたちの反応を見ながら取り組む。 ・事前にバナナの皮にみたてた新聞紙を一人ひとりに配り、遊び方を説明して進めていく。
11:30	○終わりの挨拶をする。	・日本語で終わりの挨拶を行う。

【資料3】幼稚園の活動＜第6回目＞

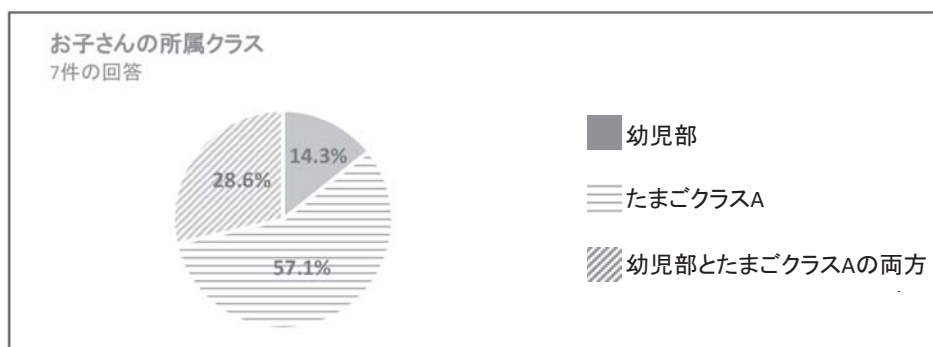
時間(分)	子どもの活動	活動を進める上での留意点
10:00～10:05	○日本語で挨拶をする。 ○名前を呼ばれたら返事をする。今日の日付、曜日、天気を確認する。	・子どもたちに対して大きな声で元気に挨拶することを心がける。 ・一人ひとりの名前を呼び、「今日は何月何日何曜日ですか」と問いかけ、ゆっくりと確認していく。言葉を発した子どもたちに対してしっかりと褒める。
10:05～10:10	○なぞなぞ動物カード遊びをする。	・はじめに子どもたちの前で遊び方を伝え、1度練習をしてから取り組む。またカードを取りやすいよう均等に机の上へ並べる。
10:40～10:45	＜休憩＞	
10:45～10:50 (※筆者担当)	○手遊び「まつぼっくり」をする。	・本物のまつぼっくりを子どもたちに見せた後に手遊びを行う。変化のある繰り返しに取り組む。
10:50～10:55	○絵本「へんしんプレゼント」を見る。	・全員の子どもたちが絵本の見える位置に座ったことを確認して読み始める。また日本語を繰り返し発するところは丁寧に読み進めていく。
10:55～11:00	○紙芝居「まんまるまんまたんたかたん」を見る。	・絵本と同様に子どもたち全員が見える位置を確認し、反応をみながら読み進める。

11:00～11:13	○「赤鼻のトナカイ」で表現遊びをする。	・歌詞を書いた用紙を見ながら、まず筆者が日本語で歌う。その後、歌詞に出てくる平仮名の「の」に注目し、その文字が出てきたら、手でたたくことを伝える。次に立った状態から「の」の所でしゃがむことを伝える。
11:13～11:18	○絵本「100にんのサンタクロース」を見る。	・思いっきり動いた後に再度、絵本読みをする。全員の子どもたちが見える位置を必ず確認する。
11:18～11:35	○製作をする。 「クリスマスベル」 ①紙コップを2つ重ね、その間に鈴をはさむ。 ②紙コップにモールを通す。 ③絵を描いたり、シールを貼ったりする。	・事前に紙コップの中央に穴を空けた状態で子どもたちに2個ずつ配る。 モール等、必要な材料を机上に並べ、作り方の説明を行う。進み具合をみて難しい箇所はTAや保護者が援助を行う。 ・紙コップの表にペンで絵を描いたり、シールを貼ったりして完成し、鈴の音を楽しむことを伝える。
11:35	○終わりの挨拶をする。	・日本語で終わりの挨拶を行う。

【資料 4】 中村先生の授業に関するアンケートの結果

釜山日本村のブログ（アメーバブログ）を長い間、ご覧いただき 2023 年度釜山日本村の活動のために 1 ヶ月に 1 回釜山にお越しいただき、ありがとうございました。中村先生の授業を受けた釜山日本村の幼稚園および小学部（たまごクラス A）の保護者 7 人に行なったアンケートの結果をご報告いたします。

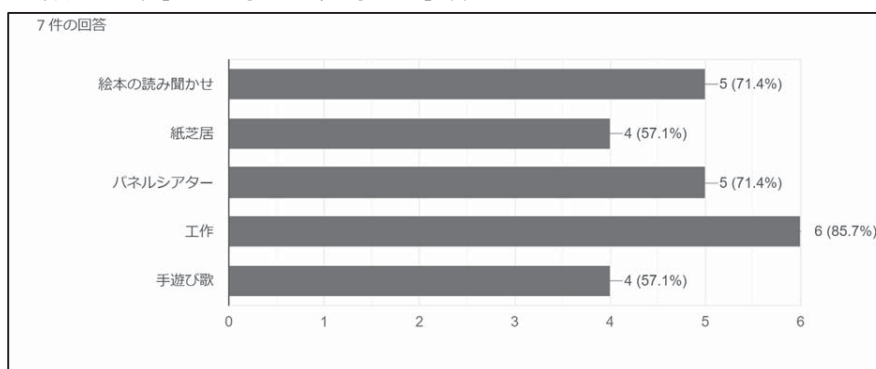
（設問 1）



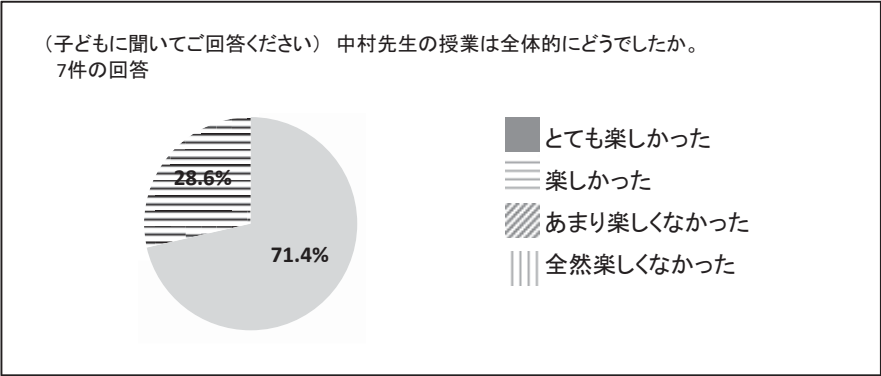
（設問 2）



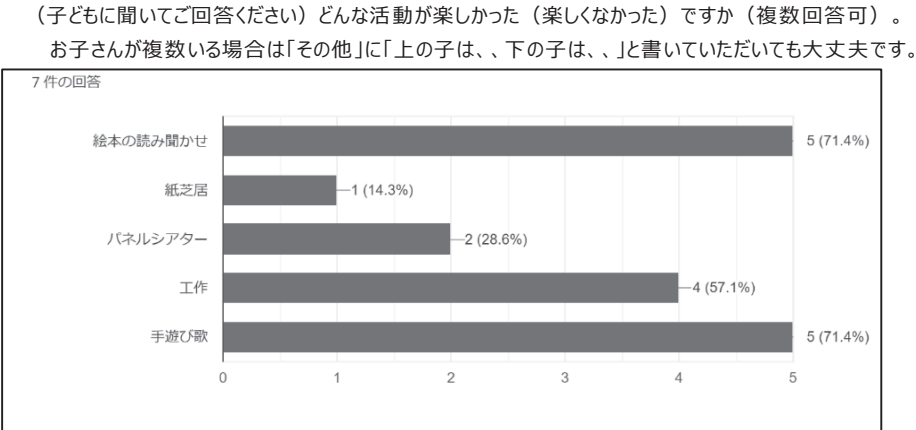
（設問 3）（保護者から見て）どんな活動が楽しかった（楽しなかった）ですか（複数回答可）。お子さんが複数いる場合は「その他」に「上の子は、下の子は、」と書いていただいても大丈夫です。



(設問 4)



(設問 5)



(設問 6)

来年度、もし中村先生が釜山日本村にいらっしゃるとしたら、どんな授業を期待しますか。内容をできるだけ具体的に書いてください。
7件の回答

パネルシアターなど個人で準備するのが大変なものを中村先生の時にしていただけると子供も親も新鮮味があって楽しいと思います！
トンボのパネルシアター素敵で中村先生の授業たくさんあったなかで一番印象に残ってます^^

やはりプロの絵本の読み聞かせは子供たちの集中度も高くすごいいと思います。また手遊び歌においても新しく(私が知らないだけかもしれませんが...)一緒に歌いやすくてよかったです。もし来年度も先生がいらっしゃるのであれば、絵本の読み聞かせと手遊び歌をぜひまたお願いしたいです。

これまでの内容だけでもすごく充実していました！

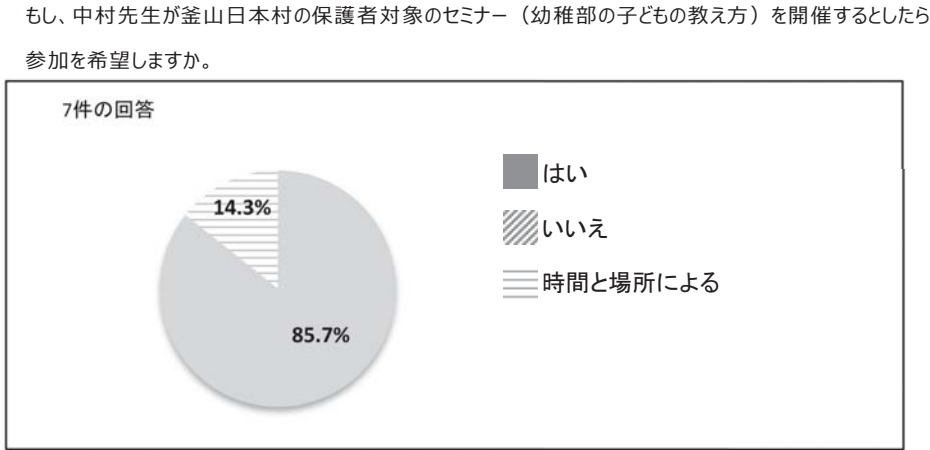
パネルシアターや季節の絵本の読み聞かせを期待します。

また、絵本の読み聞かせをお願いしたいです。

今年度同様、日本の幼稚園や保育園でやっていそうな活動や季節にあった活動を期待します

娘が料理と一緒にしたいと言いました。

(設問 7)



(設問 8) 中村先生にメッセージがあればご入力ください。(7 件の回答)

- ・楽しい授業を一年間ありがとうございました！子供たちの反応が親が先生として担当するよりも食いつきがよく、すごく楽しんでいました。来年も来ていただけるなら、すごく楽しみです～！
- ・私たちは途中参加で、先生の授業は2回しか一緒に出来ませんでしたがいつも子供達がすごく集中しさらに楽しくやっているのを見ると私まで幸せな気持ちになりました。先生の幼児教育に対する熱意と行動力にも関心します。本当にありがとうございました！又来年度も先生の授業が聞けるといいですが、何卒ご無理なさらない程度でまたお会い出来たらと思っています！
- ・韓国にいながら、専門家の方の日本の幼稚教育がうけられた大変貴重な機会でした。とても感謝しています！ぜひ下の子（4歳）にも受けさせたいです！
- ・今回のご縁、ありがとうございます。在外日本人として、日本語に継続的に触れ、友人やコミュニティから学ぶことはとても重要で、近い将来アイデンティティについて本人が考える頃へのいい影響になると思います。インターネット経由での日本語関連の学びの機会はコロナ禍を経て増えてはいると思いますが、幼児にはオンラインよりはオフラインのほうがあっていると思いますし、本当に質の高いプロからの学びはとても貴重です。先生の研究へも寄与するかたちでなにか、釜山日本村がお役に立てればとても光栄だなと、おこがましくも思いました。今後もしも負担とご無理のない範囲にて、子どもたちに学びの機会をいただけたら幸いです。よろしくお願い申し上げます。
- ・お忙しい中、釜山まで来てくださり、ありがとうございました。子供たちが食い入るように絵本の読み聞かせを聞いたり、自然にいっしょに手遊びをする姿を見て、やはり専門家の方は違うと感動しました。息子も楽しかったと申します。ありがとうございました。
- ・たくさん準備してきてくださり、絵本の寄贈まで大変ありがたかったです。日頃の日本語のインプットが動画などデジタルに頼りがちなので、アナログで日本の幼稚園や保育園でやっているような紙芝居やパネルシアターなどにふれられたのが特に良かったです。
- ・いつも来ていただき、ありがとうございます。親の私も娘と息子も先生の授業が大好きです。先生の授業で子どもたちが集中している姿を見ると、さすが先生だと思い、感心しております。